

くだらなかつたらうか、僕の受験は

駝鳥田 くらり

君がここに残って、いや、むしろ僕が

残らないのか この町を捨てて

二両目は揺れて不人気だったけど

僕が寝るのを見ていてくれた

塾終わりは頭が痛く教科書も

重くて街は鮮やかだった

自習室の椅子が今日から違うのに

君は気づくか 君は味方か

三年で偏差値が10変わるより

おそろしい人生の変容

運動も笑顔も下手で僕なりの

レジスタンスは頭でやった

平手が言う「僕は嫌だ」は僕だけに

聴こえて僕の帰路をはげます

トロツコが試験会場まで走り

僕らを運ぶ夢を、夢か、

判定は虐殺みたく残酷で

僕にはどこか気持ちよかった

心配の数だけ買った鉛筆を

焦るぶんだけ輪ゴムで縛る

模試にもし体があれば低体温

だろう僕らに数字をつけて

緊張に黙秘していた僕の胃が

今朝ようやと苦痛を吐いた

推薦の子たちがいない教室は

嫌いじゃないよ 空いて、しずかで

二重虹が架かって、すごい、吉兆だと

燥ぐのはくだらなかつたらうか